

資料⑤

東日本大震災からの復興を担う専門人材育成支援事業報告書等について（一部転載）

(様式1-1)

みやぎの復興を担う専門人材育成支援事業

「勤労観・職業観を深めさせ、地域の復興を担う人材としての志を高める[地域貢献の志を育む]」
 「商業の専門性を深めさせ、地域に貢献できる人材を育てる[専門性の深化を図る]」
 宮城県鹿島台商業高等学校

<h3>1 ニーズ</h3>	<p>現在の雇用環境の多様化・複雑化は、業後の進路に大きく関わっており特に東日本大震災以降は、地域に貢献できる人材への育成が必要となり、生徒や保護者は地元に残って宮城の復興に役立ちたいとの意識が高まっている。また、商業科の専門高校として教育内容の充実・深化が急務である。そのため、3年間の系統的なキャリア教育として、外部機関との連携を充実させ、進路目標達成だけでなく就職後の早期離職者への対策や、商業科としての専門性を活かした地域貢献への取組や、それらを推進する教員の資質向上のための充実した研修機会の必要性が高まってきている。</p>
<h3>2 目的</h3>	<p>取組1 3年間の充実したキャリア教育・進路指導を推進することにより、地元(県内)就職100%を目指す。 取組2 生徒のキャリアデザインの意識を向上させ、3年以内離職者を全国平均を下回る30%台を目指す。 取組3 地域連携を充実させるため「キャリア教育推進協議会」を組織し、様々な場面での連携を深める。 取組4 商業の専門性等を活かすため、教職員の研修を充実し資質を向上させるとともに、地域貢献活動を推進する。</p>
<h3>3 内容</h3>	<p>取組1 全学年での「キャリアの時間」プログラム(週1時間)2学年での就業体験プログラム等により、地域にとり有用で貢献できる人材であるとの意識の啓蒙をはかる。 取組2 将来を見据えたキャリアデザインを意識させる取組により、早期離職者を減少させる。 取組3 キャリア教育推進協議会からの意見を教育活動に取り入れる。 取組4 起業家教育の実施により、商業の専門性を深めさせ、地域に貢献できる人材の育成という課題解決につながる。</p>
<h3>4 実績・成果</h3>	<p>取組1 「キャリアの時間」プログラム及び就業体験プログラム等により、内定率向上及び安易にアルバイト等を選択する生徒が大幅に減少した。 取組2 将来を見据えたキャリアデザインを意識させる取組により、安易な進路選択する生徒が大幅に減少し、離職者も減少した。 取組3 キャリア教育推進協議会からの意見を教育活動に取り入れることにより、進路指導を中心として、起業家教育等も含めキャリア教育が一層充実できた。 取組4 起業家教育等の実施などにより、商業の専門性を深めさせ、卒業生のうち97%以上が宮城県に就職し、地域に貢献できる人材育成ができた。 3年間この事業を取り組んだ成果の一端として、第8回キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰に本校が受賞団体となった。</p>
<h3>5 評価</h3>	<p>取組1 地元(県内)就職が97.4%となり、復興を担っていく人材として、積極的にその役割を果たし、その志を高めることができることと期待される人材となった。 取組2 離職率は、平成23年度の卒業生(約3年前に卒業した)は37.5%、平成24年度の卒業生(約2年前に卒業した)は30.5%となり、平成22年度の卒業生の卒業後3年までの離職率57.6%と比較すると減少した。 取組3 「キャリア教育推進協議会」により、本校のキャリア教育において意見取り入れたことや外部講師等でかかわるなどの成果があった。 取組4 教職員の研修を充実させることにより、商業の専門性などを生かした特色ある教育が実施されたとともに、地域貢献活動の一層の推進となった。</p>

(様式 1 - 2)

東日本大震災からの復興を担う専門人材育成支援事業
実施報告書

学 校 名	宮城県鹿島台商業高等学校
校 長 名	佐 藤 洋 一
事業担当（職・氏名）	教諭 青 野 也寸志
庶務担当（職・氏名）	主任主査兼事務次長 伊 藤 亮 一
電 話 番 号	0 2 2 9 - 5 6 - 2 6 6 4

1 各校での事業テーマ

勤労観・職業観を深めさせ、地域の復興を担う人材としての志を高める【地域貢献の志を育む】

商業の専門性を深めさせ、地域に貢献できる人材を育てる【専門性の深化を図る】

2 事業の目的

取組1 3年間の充実したキャリア教育・進路指導を推進することにより、地元(県内)就職100%を目指す。

取組2 生徒のキャリアデザインの意識を向上させ、3年以内離職者を全国平均を下回る30%台を目指す。

地域に貢献できる震災復興を担う専門性も兼ね備えた人材の育成には、その根底として魅力あるキャリア教育の充実を目指すことで有為な人材を育成することがこの事業の大きな目的である。

これまで本校のキャリア教育・進路指導の時間にあてていた「総合的な学習の時間(キャリアの時間)」について、3年間の系統的なキャリア教育・進路指導となる上での中核となっており、一層の充実・改善を図る。

この事業を実施する3年前までは、応募前職場見学も少なく、アルバイトや縁故(実際はアルバイト)など安易な進路選択をする生徒が少なくなかった。本校がかつてキャリア教育の中心としていた起業家教育のみを柱とした取り組みでは、就職内定者数・内定率及び離職率が極端に低迷している現状を立て直すことは困難であると当時のキャリア教育推進協議会の事務局である進路指導部では判断し、進路指導の根本的な立て直しを行い、質の高い進路指導をキャリア教育の中心としていき、特色ある本校の起業家教育の取り組みも引き続き充実させていくことが、重要課題となっていたと認識した。

そのようなことから、この事業を実施した初年度である平成24年度からキャリア教育の中において、進路指導の充実にかなり力を入れ、教育内容の徹底的な見直しと根本的な立て直しを図るものとした。雇用問題の現状を踏まえたキャリア教育・進路指導の教育内容の充実・改善を行いながら、特に、外部の方々をお招きする機会を大幅に増やしたことにより、生徒がより真摯な気持ちで取り組んでいた。そのようなことから、この事業により、様々な外部の方々と接する機会の充実をより一層図る。特に、勤労観・職業観の育成に重点をおいて教育実践を行い、復興を担う人材としての志を高める。

さらに、新規高等学校卒業者の就職後状況調査を過去4年間の卒業生全員及び事業所を対象に電話または対面により実施することや、校長をはじめ、キャリアアドバイザーなどの全教職員が年間を通して事業所へ積極的に訪問及び情報交換を行うことにより、就職した卒業生全員の様子を把握・検証を行い、事後指導はもちろんではあるが、在校生へのキャリア教育・進路指導の更なる充実や改善を行う。

取組3 地域連携を充実させるため「キャリア教育推進協議会」を組織し、様々な場面での連携を深める。

魅力あるキャリア教育の推進のために、校外の方々に学校へ直接出向いて頂き、提言やご助言を頂くとともに、本校のキャリア教育にも外部講師等も含め、積極的にかかわっていただくために協議会を設置し、開催する。

まず、校内にキャリア教育推進委員会を設置し、キャリア教育推進協議会の開催（外部協議会）へ向けての原案づくりを行っていききたい。そして、推進委員会の内容をもとにして、校外に学識経験者・地元企業主・キャリア教育推進のNPO法人団体・東北経済産業局・地元公共職業安定所・県教育委員会・市役所の担当者などによって構成されるキャリア教育推進協議会の開催（外部協議会）を年2回開催する。

この協議会を設置し開催することにより、キャリア教育について様々なご指導・ご助言を頂くことや、本校のキャリア教育において外部講師等がかかわり等ができるものと期待できるといえる。

取組4 商業の専門性等を活かすため、教職員の研修を充実し資質を向上させるとともに、地域貢献活動を推進する。

キャリア教育・進路指導における教職員の資質向上が必要不可欠であり、個々の教員のキャリアステージの在り方も問われてきている。そのため、外部で行われている企業をはじめ大学や文部科学省及び厚生労働省・学会等のビジネスに関する研修会や研究会など、様々な研修の機会により、教職員の資質向上を図るとともに、各方面の専門家との交流を通じて連携を密にする。

今年度は、本校が宮城県高等学校生徒商業研究発表大会の事務局をしていることや、全国各地での商業教育の先進事例の研究発表でもある全国高等学校生徒商業研究発表大会の視察も新たに設ける。また、進路指導関係では、日本キャリアデザイン学会全国大会（東京都）の学会への参加を計画した。この学会は、本校の進路指導主事も学会員となっており、本校のキャリア教育・進路指導において大変役立つものであると判断した。他にも、キャリア教育の推進のために、地域と連携した学校づくりや、生徒一人一人に豊かな教養を少しでも身につけるための指導の在り方を探るための県外先進校訪問、キャリア教育推進連携シンポジウム、大阪商業大学、福島学院大学等、数多くの視察を行う。

また、専門教育プログラムを新たに設けた。昨年度は、キャリア教育の中でも進路指導における内容がかなりを占めていた。しかし、充実した進路指導を基盤としていながら、商業に関する専門高校として、より一層特色のある教育を目指し、専門性を深めさせることができるよう充実・改善を図ることが必要不可欠であると判断し、新たなプログラムを立ち上げた。ビジネス基礎やマーケティング・商品開発など特色ある商業科目の教育実践を目指していききたい。また、郷土の復興・再建も含め、地域の企業・行政などとの連携をより深め、地域の資源を活かしたビジネスプランの提案や商品開発など、より具体的な地域貢献の取り組みを行い、加えて、コミュニケーション力の向上に重点をおいて教育実践を行い、地域と生徒を繋げることができ、専門性の深化を図りながら、復興を担う人材と

しての志を高めさせていく。

3 事業の内容・成果

(1) 内容

取組1 全学年での「キャリアの時間」プログラム(週1時間)2学年での就業体験プログラム等により、地域にとり有用で貢献できる人材であるとの意識の啓蒙をはかる。

取組2 将来を見据えたキャリアデザインを意識させる取組により、早期離職者を減少させる。

「キャリアの時間」プログラム(週1時間・全学年)【繋げる】【深める】【高める】

「総合的な学習の時間」(旧：学校設定科目・学校裁量の時間「OT」)は週1時間、各教科の授業やLHRなどとは別に設定された時間であり、全学年独自に作成された勤労観・職業観を育むプログラム教材で実施し、3年間系統的なキャリア教育を実施していく上で中核となっている。

特に、本校では平成24年度より、キャリア教育の取り組みについて大幅な見直しを図り、内容の充実・強化を行った。雇用問題等の現状を踏まえながら、進路選択や決定はもちろん、将来の生き方について具体的できめ細やかな内容で実施している。一部を紹介すると、職業とはなにか、社会人に求められるもの、自分史・将来設計、社会人の考え方、職種の理解、求人票の見方と履歴書、面接試験対策、社会人への準備などである。

「総合的な学習の時間」を経験した本校の生徒は、卒業後の進路や新しいキャリアを意識できるようになり、会話の中に進路や将来のキャリアについて意識した話がよく聞かれるようになってきている。また、職業について表面的なイメージではなくより具体的に考えられるように、きめ細かなワークシートや指導案等による指導を行っている。指導形態はクラス単位に留まらず、2年生の2月以降の時間では、就職、進学(大学・短大・専門学校)、公務員という進路別について外部講師を招いての指導も含めて、積極的に進めている。また、全学年にわたり外部から魅力のある講師を招くことによる講話や講座も相当数かつ盛りだくさん行っており(キャリア教育・進路指導関係)、キャリア教育の充実・強化を行った。生徒は外部の方々からの指導に対して、良い意味で緊張感を持って取り組む様子が目立つなど、良い効果が表れている。取り組みを行うにあたっては、事前・事後指導を充実させるとともに、各学年ともクラス毎の指導に留まらず、きめ細かい指導に留意した。また、どの教員が担当しても同質の内容を提供できる指導案やワークシートとなるよう指導法の研究を怠らさずに行った。

キャリア教育としての「総合的な学習の時間」は、高等学校学習指導要領の「総合的な学習の時間」の内容をもとに、総合学科で実施している「産業社会と人間」や、大学・短大・専門学校などの高等教育機関のキャリア教育の実践事例も参考としながら、充実した時間としていくよう留意した。今まで以上に教職員全員で知恵を振り絞り、ワークシートや各種資料も含めた教育内容の充実や改善、教材研究や指導方法の研究を継続的に進めた。

来年度の「総合的な学習の時間」の指導計画を立てていく場合には、早めの準備を行うとともに、十分に吟味して行うようにしていきたい。また、進路ガイダンスについても、年間行事予定の進路ガイダンスは株式会社H E X A様による企画・実施も参考としていきながら、3年間の系統的なキャリア教育・進路指導を行うことを踏まえた内容になるよう十分留意していきたい。さらに、外部の方々の効果的な活用についても、一層より良いものとするために人的ネットワークの構築をより強化していき、地域をはじめ外部との連携により一層力を入れていきたい。

3年間の充実したキャリア教育充実のために進路指導部部員全員の指導力向上が必要不可欠であり、担任・副担任等の先生方が実施しやすいものになるよう、研鑽してきた。

指導案や教材・ワークシート等について、進路指導部内で共有することはもちろんではあるが、書籍やホームページ等の情報収集や、外部の研修会への積極的な参加をより一層進めていき、進路指導・キャリア教育のプロとしての自覚を持って研鑽してきた。

1 学年	2 学年	3 学年
①独自教材の作成 高校生活への目標 自己分析・他己分析 職業とはなにか 社会人に求められるもの 自分史・将来設計 人の生き方 ②キャリアカウンセリング 生徒個々の状況を理解しその発達を支援する ③研修 キャリアセミナー 5月 進路ガイダンス 7・12月 外部講師講話 7月以降 企業見学 10月 学習成果発表会 1月 卒業生懇談会 2月 等	①独自教材の作成 自己の特性や特徴 高卒就職の現状 社会人の考え方 職種理解 就業体験事前・事後指導 ビジネスマナー ②キャリアカウンセリング 生徒個々の状況を理解しその発達を支援する ③研修 キャリアセミナー 5月 進路ガイダンス 7月 外部講師講話 7月以降 ビジネスマナー講習会 9月 ビジネスマナー実技講習会 9月 就業体験 11月 電話応対に係わるビジネスマナーセミナー 1月 学習成果発表会 1月 卒業生懇談会 2月 等	①独自の教材作成 これまでの高校生活 将来設計 求人票の見方と履歴書 進路希望先の研究 ビジネスマナー 面接試験対策 進路プランの修正 社会人への準備 労働法講話 ②キャリアカウンセリング 生徒個々の状況を理解し、その発達を支援する ③研修 就職ガイダンス 5月 キャリアセミナー 5月 進路ガイダンス 6月 外部講師講話 7月以降 学習成果発表会 1月 等

就業体験（インターンシップ）の実施【繋げる】【高める】

2年生全員が3日間、生徒一人一人が希望する実際の職場で「就業体験学習」に取り組んだ11月（3日間）。このことによって、勤労観、職業観を深めさせ、将来の進路選択及びキャリアデザインに役立てるとともに、人としての在り方・生き方を考えさせることなどの目標を持って実施している。生徒も引き受けて頂いた事業所に迷惑を掛けないよう一生懸命に頑張っていた。期間中は事故などなく無事に終わることができた。

また、就業体験（インターンシップ）事前指導としてのビジネスマナーの修得をはかるため、ビジネスマナー指導の専門家による外部講師指導「ビジネスマナー講習会」「ビジネスマナー実技講習会」9月や就業体験先についての学習などの事前指導・事後指導を行った。

今回の就業体験は、2学年主任・各クラス担任の指導体制がとても素晴らしいものがあった。また、他の2学年の先生方全員の協力体制も十分出来ていたこともあり、大変スムーズに実施をすることができた。さらには、2学年進路指導部担当のスタッフは、永年のご経験も豊富であり見事な手腕を存分に発揮されており、生徒の実態を踏まえたきめ細かな指導を行うことができた。

①就業体験先の選定について

就業体験先については、生徒の希望や思いを十分踏まえながらも、本校が長年お世話になっている就業体験先も考慮しながら、将来の職業生活や社会生活にも役立つことができるような就業体験先の選定（接客も体験できる販売やサービス等）が概ねできたのではないかと見える。前にも触れたのであるが、2学年のスタッフ全員のチームワークの素晴らしさとともに、進路指導部担当のスタッフがベテランかつ経験豊富で素晴らしい力量を兼ね備えていた点が本当に大きかった。

今年度良かった点について、具体的にいくつか取り上げると、以下の通りである。

一つ目としては、すべての事業所へ教員が自ら事前訪問をきちんと行い、学校として少しでも誠意を伝えることができたとともに、事前に情報を共有しながら行うことができた。

二つ目としては、事業所の選定はかなり早く決定することができ、余裕を持って準備を進めることができた。しかし、2学年の進路指導部の先生からは、利府・多賀城方面を中心として中学校の職業体験実習も年々入ってきており、まだまだ遅い状況であった。半年ぐらい前には受け入れのお願いをするべきであるという報告があった。

三つ目としては、就業体験が1日や2日のみであった生徒が大幅に減少した。また、事業所の受入先がなく、専門学校での就業体験となった生徒はなく、すべての生徒が実際の職場で体験することができた。

四つ目としては、事前打ち合わせを教員が直接出向いて行ったこともあり（昨年度・一昨年度は生徒が電話で行う方法）、集合時間・持ち物・注意事項等の内容の聞き違いが生じることもなく、当日は安心かつスムーズであったといえる。

五つ目としては、生徒全員に作文「就業体験実習を終えて」を書かせて、お礼状とともに事業所へ送付したことである。生徒が実際に学んだ生の声を事業所へお伝えすることができた。

②ビジネスマナーの指導について

実際の職場で通用する正しいビジネスマナー指導の機会・方法について、進路指導・キ

キャリア教育の視点から、進路指導部の立場として、指導及び先生方への支援が足りず、今後指導の在り方を強化していく必要性があるといえる。この課題は、すぐに解決できるものではなく、事務局（進路指導部）においてもより一層具体的手立てを考えなければならないと考えている。

今年度も外部指導として福島学院大学教授・情報ビジネス科長の小松由美先生にご指導頂くことができた。5・6校時においては、昨年度までと同様に2時間に渡る就業体験事前指導を頂いた。

また、本年度新たな試みとして、就業体験事前指導当日の放課後、2学年商業科「課題研究」秘書概論受講者及び全学年希望者を対象として、ビジネスマナー実技講習会を開催し、外部の専門家からの直接指導を受けることにより、ビジネスマナーの重要性を深めさせる機会の一つとなった。ビジネスマナーの初歩について直接ご指導頂ける貴重な時間となり、実技を繰り返しご指導頂きながら、お辞儀や歩き方・表情・言葉遣いなどが少しずつ変化し、自信ある表情に変化している生徒達の表情が強く印象に残った。

さらに、上記の課題に取り組む新たな試みとして、福島学院大学短期大学部の視察研修を取り入れた。ビジネスマナー指導の在り方を強化していくためのキッカケづくりの一つとして、全国的にも注目されている福島学院大学短期大学部のビジネスマナー指導をしている様子を視察することにより、キャリア教育推進に向けての先生方における研修機会の提供を行った。

挨拶や礼法・態度・言葉遣い等のビジネスマナーについては、秘書サービス接遇教育の手法も入れた指導を限られた時間ではあるが一層取り入れていきたい。

③今後の課題について

就業体験先からのアンケートによると、概ね良好との評価を頂いているのではあるが、一部ではあるが厳しいコメントも頂いており、その課題解決に向けて全教職員で精一杯の努力をしているのであるが、なかなか解決できない実態がある。過去10年間のアンケート結果を振り返ってみると、一例として挨拶や態度、身だしなみ、言葉遣いといったビジネスマナーやコミュニケーション能力の向上に関する教育に力を入れてほしいといった記述が多くあった点が大きな特徴としてある。

そのような就業体験先からのアンケートの内容を踏まえながら、ビジネスマナーやコミュニケーション能力の向上を目指し、事前および事後指導の充実に努め、人間性豊かな社会人としてのビジネスマナーの向上や人材育成を行っていききたいと考えている。

就業体験先からの厳しいコメント（抜粋）

「もう少し元気よく挨拶(お客様に対してもスタッフに対しても)して欲しかった」「笑顔と元気な挨拶がなかったように思います」「もう少し元気よく挨拶ができると良いと思います」「体調管理は自己管理です」「時間厳守とは入口に入ることではなく、仕事ができる状態のことです」「売場では声が小さい」

特に、本校のビジネスマナー教育については、秘書サービス接遇検定などを実施している実務技能検定協会や高等教育機関でご指導されている先生方など外部の専門家と連携をしていく体制が構築されており、今まで以上にご指導を頂く機会を増やしていくことが重

要である。

平成26年度の3年生や卒業生からは、この「就業体験学習」の経験が、多くの場面で生かされているとの声をよく耳にしている。これからも、より良いキャリア教育推進に向け、創意工夫をしていきたい。

今年度、担当者からの報告では、就業体験先が生徒の希望を十分になええられないケースもあったことである。特に、接客業・サービス業は比較的受け入れが容易であったが、製造業は難しい現状があった。

就業体験は、最大3日間で自分に体験した仕事に適職であると判断することは事実上不可能であると認識している。同じ職種でも事業所によりかなり異なっているのが実態であると思われ、YG検査のような職業適性検査も一つの手法でその人の適性を判断するのは困難であることを、博士の学位を持つ複数の大学の心理学者が言っておられた。就業体験は、社会人として生きるための自覚を高めることや、職業人として一人前のプロとして生きる覚悟を持つためなどの機会としての位置づけが現実的である。

キャリアカウンセリングプログラム（全学年）【繋げる】【深める】

進路指導・キャリア教育において重要視されている進路相談・キャリアカウンセリングを行い、将来の生き方・在り方を考えさせ、適切な進路情報の提供及び進路選択を行うことができるよう支援を行った。

具体的には、二者・三者面談（全学年）**5・7・8・12月**、ハローワークによるジョブサポーター面談（3年）**12・1・2月**、生徒指導サポーター・キャリアアドバイザー面談（2・3年）**5～7月**、**2～3月**などを行った。

対象としては、全校生徒（1学年から3学年生徒全員）・全校生徒の全保護者・全教職員・ハローワークジョブサポーターである。

キャリアカウンセリングの充実は大変重要なことである。心の問題に真摯に向き合っていくには、心理学に裏付けられたアプローチも必要である。本校では、総務部が主幹として、カウンセリング（臨床心理士による教育相談）を受けることのできる環境づくりに時間と機会の許す限り力を入れており、恵まれた状況となっている。また、ハローワークによる面談では、進路未決定者を対象としての個別面談を古川公共職業安定所のジョブサポーターの方々にして頂いている。ジョブサポーターの方々もキャリアカウンセリングの専門家として心理学的視点からのアプローチが可能であることは大きい。さらには、宮城県中小企業同友会主催の就職ガイダンスや宮城労働局・ハローワーク主催の合同企業説明会での事業所との面談など、実際に働く社会人の方々と接していく機会を数多く設けている。

その他にも、日々の学校生活においては、担任の先生方をはじめ全教職員で、全学年対象の二・三者面談なども含め、生徒の様子を観察しながらきめ細かい指導や相談を行っている。進路指導・キャリア教育では、特にキャリアカウンセリングは重要であり、この重要な課題に対して、教職員のかかわり方の在り方が問われてきている。特に本校では、人生経験豊かな生徒指導サポーターとキャリアアドバイザーの職員3名が進路指導をはじめ進路室のキャリアカウンセリングという点において大変大きな役割を果たした。本校の進路指導主事も大学院等で臨床心理学等の応用心理学や様々な基礎心理学を学んだ経験からキャリアカウンセリングの体制づくりを強化していかなければという思いを持っている。

現実として「将来何をしたらよいかわからない」などといったように、自分の将来について相談したいという生徒は少なからずいる。実際に、キャリア教育に関する専門家が集まっている日本キャリア教育学会（進路指導主事も所属）ではキャリア・カウンセラー資格認定のための取り組みに力を入れて行っていることも、その象徴する要因の一つである。可能であれば、キャリアカウンセリング充実のために、心理学や教育相談等に関する研修会への派遣や、心理カウンセラー関係の資格取得を目指す教員を養成することもぜひ行いたいところである。また、キャリアカウンセリングという点では、例えば、放送大学や放送大学大学院では、心理学関係（特に、応用心理学の一領域である臨床心理学関係（カウンセリングに深く関連）はかなり充実している）の授業科目（BSデジタル放送やインターネットの動画配信で、いつでもどこでも授業が受講できる）や面接授業（仙台の宮城学習センターでも面接授業が多く開催）も充実しており、自己負担ではあるが、教員の自己研修も期待していききたいところである。

今後は引き続き、一層の進路情報など資料の充実を図ることや、個々に最適なアドバイスが可能になるよう、特に進路室も気軽な気持ちで相談しやすい環境となるよう、進路室のレイアウトも含め、一層努力していききたい。

キャリア教育に関する外部研修プログラム【繋げる】【高める】

取組4において述べさせて頂くこととしたい。

取組3 キャリア教育推進協議会からの意見を教育活動に取り入れる。

キャリア教育推進協議会プログラム【繋げる】【深める】

魅力あるキャリア教育の推進のために、校外の方々に学校へ直接出向いて頂き、提言やご助言を頂くとともに、本校のキャリア教育にも積極的にかかわっていただくためにキャリア教育推進協議会という外部協議会を組織して年2回開催することができた。

具体的な内容としては、校内にキャリア教育推進委員会を設置し、キャリア教育推進協議会の開催（外部協議会）へ向けての原案づくりを行った。そして、推進委員会の内容をもとにして、校外に学識経験者・地元中小企業主・地元公共職業安定所の担当者などによって構成されるキャリア教育推進協議会の開催（外部協議会）した。

このキャリア教育推進協議会には、校長、教頭、主幹教諭、教務部長、生徒指導部長、商業科主任、商業科起業家教育担当者、進路指導部長（事務局）、進路指導部担当者（事務局）の9名が担当した。そして、このキャリア教育推進協議会の事務局は、進路指導部が担当した。

具体的な報告及び協議事項等については、以下の通りである。

第1回 7月24日（火）開催

（1）報告

平成25年度キャリア教育推進事業報告

ア 平成25年度 キャリア教育推進協議会活動を中心とした主な活動報告

イ 平成26年度 キャリア教育推進協議会活動を中心とした主な活動報告

ウ 主な研究活動

エ 実施項目・成果・今後の課題

(2) 協議

平成26年度キャリア教育に向けての推進事業計画の作成に向けて

ア 研究のねらい

イ キャリア教育を実践する科目構成

ウ 本校のめざす「キャリア教育」の全体像

エ 平成26年度における主な研究活動計画

オ 東日本大震災からの復興を担う専門人材育成支援事業 事業計画書等について

カ 平成26年度「総合的な学習の時間」年間計画について

キ 平成26年度「就業体験」年間計画等について

第2回 1月29日(木)開催

(1) 報告

平成26年度 キャリア教育推進事業について

ア 平成26年度 キャリア教育推進協議会活動を中心とした主な活動報告

イ 主な研究活動

ウ 実施項目・成果・今後の課題

エ 東日本大震災からの復興を担う専門人材育成支援事業 事業計画書等について

オ 第8回キャリア教育優良教育委員会、学校及び PTA 団体等文部科学大臣表彰について

(2) 協議

平成27年度キャリア教育に向けての推進事業計画の作成に向けて

ア 研究のねらい

イ キャリア教育を実践する科目構成

ウ 本校のめざす「キャリア教育」の全体像

エ 平成27年度における主な研究活動計画

取組4 起業家教育の実施などにより、商業の専門性を深めさせ、地域に貢献できる人材の育成という課題解決につながる。

この取組4の課題解決を目指した取り組みについては、主に以下の三つのプログラムにより教育の実践を行った。

専門教育プログラム【繋げる】【高める】

商業に関する専門高校として、より一層特色のある教育を目指し、専門性を深めさせることができるよう充実・改善を図ることをねらいとした。

内容としては、ビジネス基礎やマーケティング・商品開発・広告と販売促進など特色ある商業科目の教育実践を目指した。特に、生徒の実態に応じた上で専門性を深めさせるとともに、起業家教育プログラムなどとも結びつけさせながら進めることとした。また、商業科目の授業をはじめ、課外活動である簿記部などでも行っている生徒の実態に応じた職業資格取得も推進した。特に、簿記部などで行っているように、進んで意欲的に取り組む

生徒に対しても全商簿記検定1級や日商簿記簿記検定2級など上位の職業資格取得のための指導を推進した。さらに、新たな試みとして、秘書概論の生徒などを対象に2年生のビジネスマナー講習会終了後、放課後にビジネスマナーの特別指導を実施し[9月]、短時間ではあるが、専門家による秘書教育を取り入れた専門教育の機会を設けた。対象は、2学年「課題研究」秘書概論の受講生徒全員と希望する全校生徒（1学年から3学年生徒全員）や教職員であった。

また、3学年の「総合実践」における起業家教育と連動していきながら、3年選択科目「商業技術」16名の生徒がプロデュースした商品が完成した。その商品は「パリもちスティック」であり、11月15日（土）・16日（日）の2日間、イオン古川店で販売し、完売する盛況ぶりであった。今後、地元企業等と連携し商品開発を通じて、実際のビジネス社会の現場を踏み込むことにより、学校と社会との接続の一環として教育効果が期待され、地域にも喜ばれる取り組みにもつながっていくといえる。

起業家教育プログラム【繋げる】【高める】

起業家教育は、模擬会社の運営や商品開発、販売体験などの経済活動を題材とした問題解決学習を通して、生徒が自ら課題を見つけ解決していく過程の中で、起業家精神や起業家的資質・能力を育成する教育である。起業家精神とは、未来を切り開くチャレンジ精神であり、創造性や探究心、そして自信をともなうものである。起業家的資質・能力とは、課題を解決するため、情報を収集し分析する力、協同して取り組むチームワーク力、さらに、リーダーシップ、プレゼンテーション力、コミュニケーション力等を指している。これらの力は、企業を立ち上げる起業家だけに必要な力ではなく、社会の中でよりよく生きていくために、だれにでも必要な力であり、特にこれからの社会を担っていく子供たちが身に付けるべき基本的な力であると言える。

本校の起業家教育の中核として行っているのは、「総合実践」（3単位・3年）[10月以降]である。この「総合実践」で行っている「鹿島台商業高等学校アントレプレナーシッププログラム」（通称：KEP）により、地域と連携した商品開発やビジネスプランの提案を行うなどの起業家教育を実施した。

校内で商品開発を企画検討し、優秀な商品について、地域の商店や企業等と連携した商品開発を実施できるよう努力を行った。

宮城大学との連携「課題解決型学習における学生チューターの学習支援」

（3年）[11月]を行った。

①プログラム（教材）名

「鹿島台商業高等学校アントレプレナーシッププログラム」

（KASHIMADAI commercial high school Entrepreneurship Program 通称：KEP）

②本プログラム活用の経緯

一昨年度から、本校で作成し活用している教材を、グループ活動の活性化と思考力や創造力の向上をねらいとした内容に改編した。

昨年度の授業実践において、グループ活動時の生徒は、おおむね活発にコミュニケーションをとっている様子であり、ロジックツリーなどの思考技術を体験することによって、物事を深く考えることもできていた。

今年度は、生徒に提示するミッション（課題・テーマ）を新たなものに設定し、全体の

指導計画についても、昨年度の授業実践での授業担当者と生徒の反応を踏まえて、本校の生徒の実態に合わせた内容に改善した。

③指導計画（15単元35時間構想）

STEP (単元)	タイトル(単元名)	時数	主な学習内容
1	起業家教育をスタートしよう	1	・起業家教育のねらいと学習内容を理解する。 ・ミッションを受け取る。
2	チームをつくろう	1	・チームを編成し、役割分担を決める。
3	チームワークを高めよう	1	・アイスブレイクを行い、チームのコミュニケーションを深める。
4	ミッションの詳細テーマを決めよう	1	・ミッションに設定された6つの詳細テーマのなかから、チームで取り組むものを1つ決める。
5	ミッションの背景を深く探ろう	3	・ロジックツリーの考え方を理解する。 ・地域が抱えている問題の原因を、ロジックツリーを活用して推測する。
6	大崎市の資源を調べよう	3	・活用する大崎市の資源について調べる。 ・既存の商品を調べる。 ・活用する資源を分析する。
7	アイデアのコンセプトを考えよう	3	・ミッションクリアの状態（理想の地域）を 実現させる方法を、ロジックツリーを活用 して、深く考える。
8	企画会議を開こう	3	・アイデアのコンセプトを固める。 ・ブレインストーミングとワールドカフェを 活用して、アイデアを考案する。 ・KJ法を活用して、複数のアイデアをグル ープピングする。 ・アイデアを投票形式で絞り込む。 ・考案したアイデアを、企画書にまとめる。
9	中間報告の準備をしよう	1	・企画書をもとにした発表の準備を行う。
10	中間報告をしよう	2	・チューター（大学生）に対して、アイディ アを発表する。 ・チューターとのディスカッションを行う。
11	アイデアを改善しよう	5	・チューターからのアドバイスを整理する。 ・ブレインストーミングを活用して、改善し たアイデアを考案する。 ・KJ法を活用して、複数のアイデアをグル ープピングする。 ・アイデアを投票形式で絞り込む。 ・6W3Hシートを作成して、アイデアを 具体化する。
12	アイデアを完成させよう	2	・アイデアを完成させ、企画書を作成する。
13	プレゼンテーションの資料を作成しよう	6	・発表原稿とスライド資料を作成する。 ・リハーサルを行い、改善する。
14	プレゼンテーションをしよう	2	・活動の成果をプレゼンテーションする。
15	すべての活動を振り返ろう	1	・これまでの活動を自己評価する。

④ 今年度のミッション（課題）・テーマについて

「大崎市の豊かな資源を活用し、大崎市民の笑顔が咲く『伊達な商品』を提案せよ！」

ミッションの詳細テーマ（全6チームがそれぞれの詳細テーマに取り組む）

鳴子地区：大崎市民が泊まりたいと思う「温泉宿」宿泊プランを考案する。

岩出山地区：若者をターゲットにした「しの竹細工」の新商品を考案する。

三本木地区：「ひまわり」をモチーフ（題材）にした新商品を考案する。

田尻地区：「ジャージー牛乳」を活用した新商品を考案する。

松山地区：地酒づくりに使う麴を活用した「甘酒」の新商品を考案する。

鹿島台地区：地元からの来場者が増える「互市」アップグレードプランを考案する。

ミッション設定の経緯

今年度は、昨年度と同じミッション・詳細テーマに取り組んだ。

新しいミッションを設定しなかった理由は、来年度から起業家教育を実践する科目が「地域ビジネスプランニング」（学校設定科目）に変更され、単位数は2単位（週2時間）と1つ減るものの、実践期間は4か月間から1年間となり、授業時数も増えることから、内容の大幅な変更が必要のため、今年度はあまり内容を変更せずに実践することとした。

⑤ 3年間の実践を振り返って

（ア）新しい教材の使用について

平成24年度の実践から、それまで使用していた自作教材の精度を上げるために、内容を大幅に変更した教材「鹿島台商業高校アントレプレナーシッププログラム」を作成し活用した。

主な変更点は、生徒がグループ活動によって地域の特産品を活用した新しい商品を考案する際に、企業において意思決定の場や企画会議などで活用されている「フレームワーク」を取り入れたことである。

フレームワークをグループ活動に活用するメリットは、物事を幅広く考えることができることや、思考の過程を説明しやすくなること、グループ内でのコミュニケーションが活発になるなどが挙げられる。

実際に活用したフレームワークは次のとおりである。

アイスブレイク	チームワークを高めるゲーム
ロジックツリー	思考過程を樹形図で表現し、幅広く深く考える思考法
ブレインストーミング	多くのアイデアを生み出す集団発想法
ワールドカフェ	メンバーの入れ替えを複数回行う話し合いの方法
KJ法	多くの情報を整理・収束・結合させる方法
衆目評価法	投票形式による意思決定法
6W3H	アイデアを具体的にする項目

これらのフレームワークを活用したことによって、活動に多様な動きが生まれ、グループ活動は活発に行われたと思われる。また、ホワイトボードシートや付箋紙、シールなどの教具を使うことによって、多くの意見や思考過程が見やすくなることから、話し合いがスムーズに進んでいた。特に印象的だった場面は、ブレインストーミングとワールドカフェを併用し、アイデアを考案する話し合いを繰り返し行った際で、クラス全体ですべて

のチームのアイデアを考案しようという雰囲気を感じられた。

(イ) 生徒の実態について

先にも述べたように、フレームワークを活用することによって、グループ活動が活性化されるが、活動に臨む生徒の様子は年々変化してきている。

具体的には、グループ活動のように集団の中の一員として活動することを苦手としている生徒が見られる。話し合いなどの場面で、自分の意見が言えなかったり、グループのメンバーとコミュニケーションを取りながら作業を進めたりすることができないのである。そのため、静かにして時間が過ぎることを待っているか、授業とは関係のない会話や行動をして、グループに迷惑をかけてしまっている。こうした生徒に対しては、社会に出てからの仕事は、ほとんどが集団行動なのだから、責任を持って活動に臨むように話しているが、それを理解できても、積極的に活動に望めない生徒がいる現状にある。

また、生徒の探究心や創造力も年々希薄になってきている。そのため、地域社会や新しい商品を考案することに関心が持てず、実際に考案するアイデアの質も内容的には安易なものになってしまう傾向にある。指導者側が何度もアドバイスをし、考えを深めさせようとするが、なかなか有効的な意見が出ず、難しいと感じてしまうと簡単にあきらめてしまう生徒も見られる。

これらの問題については、ファシリテーションやコーチングを指導に取り入れるなどして改善していかなければならないと感じている。

さらに、この実践が2学期からということもあって、生徒の進路が徐々に決まりだすと、あとは卒業するだけといった感じで、授業に対するモチベーションも下がってしまっていた。

この点については、来年度から1年間にわたって活動する指導計画に変更になるとはいえ、注意して指導していきたいと思っている。

しかし、活動の最後となる学習成果発表会では、おそらく初めてだと思われる大人数の前でのプレゼンテーションを経験すると、どの生徒も達成感を感じている様子は毎年変わらず見られている。今後とも、生徒にとって大舞台となるような機会をゴールとして活動に取り組みさせる予定である。

(ウ) 地域との連携について

この3年間で地域との連携を充実させることはできなかった。キャリア教育推進協議会に参加していただいている方々に、ミッションを生徒に提示する際に使用する映像教材に出演はしていただいたが、それ以外に生徒と関わっていただく機会を設けることができなかった。

しかし、教材が新しくなる前から行っていた、宮城大学事業構想学部宮原ゼミの学生に、チューター（講師）として来校していただき、生徒とともにディスカッションする授業は、毎年欠かさず実施することができた。生徒は、年が近いとは言え、初めて会う大学生に向けて、緊張しながらチームで考案したアイデアのプレゼンテーションを行うが、その後に行うディスカッションでは、大学生から気さくに声をかけていただき、リラックスしながらも真剣な表情で、アイデアに対するアドバイスを聞き入る様子が見られた。次年度以降は、この内容をベースに、地域の方々に協力をお願いできればと考えている。

⑥ 次年度に向けて 科目「地域ビジネスプランニング」（2単位）

（ア）指導計画（案）

月	学習内容	備考
4	① オリエンテーション ・学習内容について	・協力企業との打ち合わせ ・ミッション（課題）の設定 ・ <u>ミッション映像の撮影</u>
5	② プレゼンテーション学習 ・PowerPointの使い方 ・効果的なスライド（発表資料）作成 ・シナリオ（発表原稿）作成	
6	・伝わる話し方の練習 ・プレゼンテーション演習	
7	③ 起業家教育オリエンテーション ④ ミッション（課題）発表 ⑤ チーム編成・アイスブレイク ⑥ 担当テーマ・担当企業の決定 ⑦ <u>「企業訪問」</u> （※夏季休業中）	・「企業訪問」日程調整 ・生徒が担当企業を訪問させていただき、見学や体験を行う
8	⑧ ミッションの背景を探る ・テーマに隠された課題の原因を推測する	
9	⑨ <u>「企業ミーティング」</u> ⑩ アイディアのコンセプトを考える ⑪ 企画会議	・協力企業に来校していただき、生徒とディスカッションする
10	⑫ 「中間報告会①」 ⑬ アイディアを改善する	・大学生に来校していただき、生徒とディスカッションする
11	⑭ <u>「中間報告会②」</u> ⑮ アイディアを完成させる	・協力企業に来校していただき、生徒とディスカッションする
12	⑯ プレゼンテーションプランの作成 ⑰ プレゼンテーション資料の作成 ⑱ プレゼンテーション・リハーサル	・発表会に参加していただき、生徒のプレゼンに対して講評をいただく
1	⑲ <u>「学習成果発表会」</u> ⑳ 活動の振り返り	

（イ）ミッション（課題）について

（案1）地域が抱えている課題を1つのテーマとし、協力企業や地域の資源を活用して、課題の解決につながる新しい商品のアイディアを考案する。

（案2）協力企業（6社予定）それぞれでミッションを設定し、協力企業や地域の資源を活用して、新しい商品のアイディアを考案する。

（ウ）起業家教育の総まとめとしての学習成果発表会について **1月**

外部施設を使って、生徒自らが起業家教育などの学習成果を全校生徒の前で発表を行った。発表会には協力頂いた外部団体の方々などにも参加を頂いた。

キャリア教育に関する外部研修プログラム【繋げる】【高める】

教職員対象にキャリア教育に関する指導力の向上を図るため、多くの研修の機会を設定し、資質向上とともにキャリア教育の内容を一層充実させていくために実施した。

進路指導関係では、日本キャリアデザイン学会全国大会（東京都）**9月**の学会への参加を行った。この学会は、本校の進路指導主事も学会員となっており、本校のキャリア教育・進路指導の役立つものであると判断し計画した。現在の雇用問題や社会生活等の課題について、全国を代表する専門家からのご教示を頂くことのできる機会を設けた。さらに、昨年度に引き続き、文部科学省のキャリア教育推進連携シンポジウム（東京都）にも参加**1月**し、全国のキャリア教育の先進事例を学ぶ機会となった。

専門教育及び起業家教育関係では、昨年度に引き続き、大阪商業大学主催の「起業教育研究会」（大阪府）**8月**の参加を計画したのであるが、予算執行時期が間に合わなかったこととともに、関西地区に大型台風が直撃し、起業教育研究会が急遽開催中止となり、研修が実現できなかった。しかし、その代替として、「全国高等学校ビジネスアイデア甲子園 最終審査&表彰式」**11月**には、本校の起業家教育で企画・運営の中心となっている教員2名が視察研修することができた。さらに、本校が高等学校生徒商業研究発表大会の宮城県事務局も担っている点を考慮し、全国高等学校生徒商業研究発表大会**11月**などの視察も行い、商業科の専門性を深めさせるための教職員の資質向上を図ることができた。

（2）成果

取組1 「キャリアの時間」プログラム及び就業体験プログラム等により、内定率向上及び安易にアルバイト等を選択する生徒が大幅に減少した。

取組2 将来を見据えたキャリアデザインを意識させる取組により、安易な進路選択をする生徒が大幅に減少し、離職者も減少した。

添付資料である「平成26年度 キャリア教育推進協議会」58ページから62ページに掲載させて頂いたように、平成22年度までの3年間における学校紹介における就職内定者は、平成20年度41名、平成21年度34名、平成22年度37名と厳しい結果であった。また、平成23年度は56名は内定しているのではあるが、その他の内容に着目してみると未定者2名をはじめ、その他（アルバイト）が6名、そして自営縁故が11名であり、安易な進路選択をしていると思われる生徒が18名（縁故のうち1名は書面による届出があった）もいた。

しかし、平成24年度以降は安易な進路選択をしたと思われる生徒は、平成24年度8名、平成25年度が5名、平成26年度6名と大幅な減少という結果となった。自営縁故は、きちんと書面による届出を徹底し、明確化した。

また、添付資料である「平成26年度 キャリア教育推進協議会」63ページから69ページに掲載させて頂いたように、新規高等学校卒業者の就職後状況調査結果によると、離職率は生徒のキャリアデザインの意識を向上させ、3年以内離職者を全国平均を下回る30%台を目指してきたが、概ね達成することができたものといえる。詳しくは、下記の

評価のところでも述べさせて頂くこととした。

取組3 キャリア教育推進協議会からの意見を教育活動に取り入れることにより、進路指導や起業家教育等のキャリア教育が一層充実できた。

今日の若者の雇用問題について、ハローワークや教育委員会、地元企業、東北経済産業局、優れたキャリア教育を実践しているNPO法人ハーベストなど、様々な方々から実際の様子について貴重なお話を頂戴することができた。起業家教育においても、率直なご意見やご助言を頂いたことにより、特に平成27年度の起業家教育「地域ビジネスプランニング」や商品開発等の教育実践に生かしていく機会を頂くことができた。また、1月の協議会においては、本校がプロデュースした開発商品「パリもちスティック」を実際に試食して頂き、貴重なご意見も頂戴することができた。

取組4 起業家教育の実施などにより、商業の専門性を深めさせ、卒業生のうち97%以上が宮城県に就職し、地域に貢献できる人材育成ができた。

添付資料である「平成26年度 キャリア教育推進協議会」58ページから62ページに掲載させて頂いたように、卒業生のうち97%以上が実際の勤務先が地元宮城県に就職し、震災復興を担う地域に貢献できる人材が巣立っていった。

(3) 推進協議会

本校が事務局で年2回開催されたキャリア教育推進協議会で出された主な意見等は、以下の通りであった。若い人材の労働問題や離職問題については、実際の様子をお伺いすることができ、日々のキャリア教育の充実・改善に生かすことができた。また、起業家教育についても積極的なご意見を頂戴し、来年度の「ビジネスプランニング」などの実践に生かせるものとなった。

外部講師については、キャリアプランニング株式会社の桑名暢氏には、この協議会をきっかけに外部講師等でのかかわりを複数回持たせて頂いた。特に、進路指導においてはより多くのご助言を頂戴した。平成27年度については、総合的な学習の時間（キャリアの時間）にもさらに多くのかかわりを持たせて頂く予定となっており、この時間の約3分の1程度を桑名さんを含めた外部講師をより積極的に活用していきたいと考えている。

キャリア教育推進協議会で委員から出された一部意見等は、以下の通りである。

第1回 7月24日（火）開催

- ①離職率について質問があり、学校側から本校生徒の離職率は低下しているが、定着率アップのための指導をより強化するとともに、進学者の様子も調査する予定でいるというご回答を行った。
- ②離職が悪いと思わない。離職の理由が問題であるので、その場合のフォローやケアが大切となってくる。
- ③外の作業職はかなり人手不足で、新卒者があまり入ってこない厳しい現状がある。

- ④建設業界で技術者はいるが、経理がない。今後経営が大変になるのではないか。
- ⑤離職は、辞めてもいい環境があるから、親が踏みとどまらせることができていない。
- ⑥離職が悪いとは思わないが、現在の若い社員は我慢やコミュニケーション力が不足しているので大変である。
- ⑦新卒求人が恵まれているので、離職者が次の希望に合致しないことが多い。
- ⑧起業家教育では、技術よりもプレゼン力をつける指導や組み立てを教えるはどうか。
- ⑨地元、出身校に対して成果を伝えることが必要である。

第2回 1月29日(木)開催

- ①保護者対象のセミナーや説明会の開催についての効果等をお伺いしたいというお話があり、今年度の様子について学校側からご説明申し上げた。特に、日程を変えれば保護者の出席率が上がるのではないかとのご意見を頂戴した。学校側からは、例えば進路斡旋手続き説明会(3学年の4・5月に開催)については、土曜日開催ではなく日曜日開催などの工夫をしていきたいというご説明を申し上げた。
- ②離職について、在校生には離職の理由や様子等を個人情報保護には万全を期しながらお話をすることや、キャリア教育・進路指導の充実・改善にもスピーディに対応させて頂いているというお話をさせて頂いた。委員の方からは、高卒者の就職後の離職率について宮城は特に高いというお話を頂戴した。
- ③互市(地元のお祭り)に出店してもらいたいという要望があった。
- ④アイディアは出ているが、プランニングになっていない。調査等の時間が必要なのではという意見があった。
- ⑤様々な地域連携や商品開発をしていくには、商工会を通すとやりやすいのではないかと意見があった。
- ⑥本当の起業者のお話を聞かせるのもよいのではないだろうかという意見があった。
- ⑦高校生の目線も大切なので、ぜひ協力させてほしい。
- ⑧生徒に対して、表現や話すことの学習も必要なのではないかと思う。プレゼンテーションも含めたコミュニケーション力が高まれば離職もさらに減るのではないか。
- ⑨外部のビジネスコンテストにもっと積極的に参加させてはよいのではないか。

3年間この事業を取り組んだ成果の一端として、第8回キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰に本校が受賞団体となった。

(4) 評価

取組1 地元(県内)就職が97.4%となり、復興を担っていく人材として、積極的にその役割を果たし、その志を高めることができると期待される人材となった。

上記の(2)取組1で述べさせて頂いたとおりである。

取組2 離職率は、平成23年度の卒業生(約3年前に卒業した)は37.5%、平成24年度の卒業生(約2年前に卒業した)は30.5%となり、平成22年度の卒業生の卒業後3年までの離職率57.6%と比較すると減少した。

添付資料である「平成26年度 キャリア教育推進協議会」63ページから69ページに掲載させて頂いたように、新規高等学校卒業者の就職後状況調査結果によると、離職率は生徒のキャリアデザインの意識を向上させ、3年以内離職者を全国平均を下回る30%台を目指してきたが、上記のように離職率は、平成23年度の卒業生（約3年前に卒業した）は37.5%、平成24年度の卒業生（約2年前に卒業した）は30.5%となり、平成22年度の卒業生の卒業後3年までの離職率57.6%と比較すると減少したことにより、概ね目指していた離職率は達成することができたものといえる。しかし、いずれにしても、離職している卒業生は依然として少なくなくいる現状があることも重く受け止め、一層の対策が必要不可欠であることも忘れてはならない。

取組3 「キャリア教育推進協議会」により、本校のキャリア教育において意見取り入れたことや外部講師等がかかわるなどの成果があった。

意見を取り入れた点については、上記の（2）成果のところでも述べさせて頂いたとおりである。外部講師については、キャリアプランニング株式会社の桑名暢氏には、この協議会をきっかけに外部講師等でのかかわりを複数回持たせて頂くことができ、平成27年度については、さらに多くのかかわりを持たせて頂く予定となっており、さらなるキャリア教育の充実が図られるものといえる。

取組4 教職員の研修を充実させることにより、商業の専門性などを生かした特色ある教育が実施されたとともに、地域貢献活動の一層の推進となった。

宮城県震災復興計画によれば、震災後の宮城の復興を実現し、持続可能な地域社会をつくっていくためには、未来を担う人材の育成が何よりも必要であるとしている。特に甚大な被害を受けた農林水産業やものづくり産業などを担う専門人材の育成強化は重要である。

本校では、魅力あるキャリア教育のさらなる充実を大きな柱としていきながら、震災からの復興を担う専門人材の育成のために、商業の専門性を生かした特色ある教育が実施された。また、様々な外部機関や人材の積極的活用の促進を通して、生徒と地域を繋ぎ、地域の専門人材の育成ニーズにあった学習活動を通して、生徒の専門性を深めていくとともに、復興を担っていく人材として望ましい勤労観や職業観を身につけて、積極的にその役割を果たしていこうとする志を高めることにつながっていったといえる。

キャリア教育に関するアンケート調査について

キャリア教育に関するアンケートを全校生徒に対して3年連続で実施している。本校のキャリア教育・進路指導に関係する内容について質問紙法で行い、できる限り本校の生徒の実態を踏まえて答えやすいよう留意した。

なお、今年度のアンケート調査の実施時期等は、以下のとおりである。

平成26年12月22日(月) 1～3学年 出席している生徒全員

アンケート結果については、平成24年度に調査開始以来3年連続で概ね全学年とも、すべての質問項目について「良かった」「どちらかという良かった」と答えていた。平成27年3月に卒業予定の生徒が記述したものを一部取り上げると、以下のようなものがあった。

※アンケート用紙については、次ページ(P28)に掲載した。

キャリア教育に関するアンケート調査おいて 生徒の記述した内容列(3年生・一部抜粋)

発表は大変なぞ良いと思う(男子)」「自分のためになることを聞けて良かった(男子)」「自分の進路をしっかりと決められた(男子)」「良かった(男子)」「いいと思う(男子)」「ためになる話だと思う(男子)」「就職橋が橋できていい経験だと思う(男子)」「外部の方々の話を聞いた(男子)」「1年生の企業見学は大事だと思うから(男子)」「発表会で勉強になったことといえばあったから(女子)」「応募前職場見学が良かった(女子)」「就職橋が仕事の大変さかわかった(女子)」「進路ガイダンス・進路講話などはとても役立ったので良かったです(女子)」「総合の時間が良かったです(女子)」「応募前職場見学が行って良かったです(女子)」「楽しかった(女子)」「キャリア教育で指導してくれるのありがたいと思いました(女子)」「外部の方々からの話は自分じゃわからないことが聞けるので良かったです(女子)」「よくわかんなかった(女子)」

キャリア教育に関するアンケート（生徒）

男子 女子 （ いずれか ○ で囲んで下さい。）
 アンケート記入の日・曜日………平成26年12月22日（月）曜日

本校のキャリア教育・進路指導に関係する次の各項目について、1～4の中から選択して○で囲み、回答して下さい。また、その回答を選んだ理由を答えてください。

選択肢

1 良かった

2 どちらかという良かった

3 どちらかという良くなかった

4 良くなかった

質問	回答	集計欄
学習成果発表会について ※2・3年生のみ回答して下さい。	回答 <u>1</u> <u>2</u> <u>3</u> <u>4</u>	
理由		
質問	回答	集計欄
進路ガイダンス・進路講話など、外部の方々からのお話やご指導について	回答 <u>1</u> <u>2</u> <u>3</u> <u>4</u>	
理由		
質問	回答	集計欄
企業見学（工場見学）について ※1年生で実施	回答 <u>1</u> <u>2</u> <u>3</u> <u>4</u>	
理由		
質問	回答	集計欄
就業体験（インターンシップ）について ※2年生で実施 ※2・3年生のみ回答して下さい。	回答 <u>1</u> <u>2</u> <u>3</u> <u>4</u>	
理由		
質問	回答	集計欄
3年「総合実践」起業家教育（KEP 鹿島台商業高校アントレプレナーシップ プログラム）について ※3年生で実施 ※3年生のみ回答して下さい。	回答 <u>1</u> <u>2</u> <u>3</u> <u>4</u>	
理由		
質問	回答	集計欄
応募前職場見学や学校見学・オープンキャンパスについて ※3年生のみ回答して下さい。	回答 <u>1</u> <u>2</u> <u>3</u> <u>4</u>	
理由		
質問	回答	集計欄
進路指導・キャリア教育（例：OT、総合的な学習の時間）全般について （※総合的に判断して下さい）	回答 <u>1</u> <u>2</u> <u>3</u> <u>4</u>	
理由		

4 地域人材ニーズの状況、事業の必要性

現在の雇用環境は多様化・複雑化しており、本校の生徒が卒業後大きくかかわっていく課題である。東日本大震災以降、地域に貢献できる人材の育成へのニーズが特に顕著である。また、生徒や保護者も地元に残り、宮城の復興に役立ちたいという意識が高まっており、昨年度、今年度とも就職希望者のほぼ100%が県内を希望している。今後、充実したキャリア教育を実践していくには、地域との連携をますます深めながら、積極的に外部の方々の力を頂くことが一層必要となってきたことから、事業の必要性はますます高まってきていると言える。

また、商業に関する専門高校として、進路指導を柱とした充実したキャリア教育推進のためには、より一層特色のある教育を目指し、専門性を深めさせることができるよう充実・改善を図る必要性が急務である。商業に関する専門高校として、より一層特色のある教育を目指し、専門性を深めさせることができるよう充実・改善を図ることが必要不可欠である。地域人材と積極的に連携をしていきながら、ビジネス基礎やマーケティング・商品開発など特色ある商業科目の教育実践を目指していきたい。

課題

- (ア) これまで本校のキャリア教育・進路指導の時間にあてていた「総合的な学習の時間」について、3年間の系統的なキャリア教育・進路指導となるよう、さらに一層の充実・改善を図っていかなければならないこと。このプログラム（事業）により、様々な外部の方々と接する機会の充実をより一層図っていかなければならない。特に、勤労観・職業観の育成に重点をおいて教育実践を一層図ることがある。
- 特に、外部講師については、キャリアプランニング株式会社の桑名暢氏には、平成27年度の総合的な学習の時間（キャリアの時間）にもさらに多くのかかわりを持たせて頂く予定となっており、この時間の約3分の1程度を桑名さんを含めた外部講師をより積極的に活用していく。
- (イ) 雇用問題の現状を踏まえたキャリア教育・進路指導の教育内容の充実・改善をしていかなければならない。特に、進路目標達成後の指導の在り方について、混乱している雇用問題に直面する生徒への指導の在り方が大いに問われている現状を、きちんと教職員一人ひとりがより一層認識していくことが重要である。
- (ウ) 商業に関する専門高校として、より一層特色のある教育を目指し、専門性を深めさせることができるよう充実・改善を図っていかなければならないこと。特に、郷土の復興・再建も含め、地域の企業・行政などとの連携をより深め、地域の資源を活かしたビジネスプランの提案や商品開発等、地域と生徒が繋がるなど、より具体的な地域貢献の取り組みを行い、復興を担う人材としての志を高めさせることが急務である。
- (エ) キャリア教育・進路指導及び専門高校として専門性を深めさせるための教職員の資質向上が急務である。そのため、外部で行われている企業をはじめ大学や経済産業省・学会等のビジネスに関する研修会や研究会など、様々な研修の機会により、教職員の資質向上を図るとともに、各方面の専門家との交流を通じて連携を密にすることが大切となってくる。特に、日本キャリアデザイン学会全国大会といった学会への参加

を計画した背景には、高校卒業後の人生の生き方・在り方が多様化・複雑化し、厳しい雇用問題の現状などから、キャリア教育をの在り方を研究している研究者・事業者などから吸収し、進路目標達成後の指導の在り方を中心にキャリア教育・進路指導の課題解決を少しでも目指していきたい。

5 成果の普及・平成27年度以降の事業展開の予定（企業・団体・地域との関係）

平成27年度キャリア教育に向けての推進事業計画の作成に向けて、事業展開の予定は以下の通りである。

（1）概要

平成27年度以降については、「キャリア教育推進協議会」として継続運営し、1・2・3年「総合的な学習の時間」（1単位）（学校裁量の時間「OT」を継承）をはじめとした進路指導を中心としたキャリア教育の推進をしていきたい。また、3年生学校設定科目「地域ビジネスプランニング」（2単位）などによる起業家教育も一層充実させていき、生徒の望ましい勤労観・職業観を育む「キャリア教育」を推進したい。

なお、昨年度まで行ってきた2年生「課題研究」（3単位のうち1単位）の就業体験の事前・事後指導の時間については、3年間の系統的なキャリア教育の推進の点や、今年度から「課題研究」が1単位減（3単位から2単位に減となる）となる関係もあり、就業体験の事前・事後指導は進路指導部が担当した。

来年度は、平成24年度から「東日本大震災からの復興を担う専門人材育成支援事業」の研究指定を受けてから4年目となる。特に、昨年度から今までの具体的な検証も兼ね、質問紙調査などによりデータも取り入れながらの検証も行っている。この貴重な詳細データは、平成25年度の第2回キャリア教育推進協議会の詳細資料版や平成26年度の第2回のキャリア教育推進協議会の資料にも掲載させていただいた。この貴重なデータを生かし、平成27年度以降の事業展開を行いたい。

（2）平成27年度以降の主な事業展開計画

- ① 全学年対象の「総合的な学習の時間」によるキャリア教育（自作教材について一層の充実を目指す）
- ② 外部との連携に一層力を入れ、外部機関や人材の積極的活用の促進
- ③ 宮城県教育庁高校教育課キャリア教育班など教育行政機関との密接な連携。
- ④ 宮城労働局・古川公共職業安定所をはじめとした各地のハローワーク等とのさらなる密接な連携に力を入れる。特に、本校在籍生徒の居住地域の約7割を占める仙塩地区にある仙台・塩釜ハローワークとの密接な連携も引き続き重視する。
- ⑤ 中小企業家同友会等との連携も含め、各企業等の事業所との密接な連携等を通じて、

昨今社会問題となっている若年者の離職問題についての対策を積極的に行う。

- ・離職問題に対応するためのデータ等の情報収集も一層促進する。
- ・昨年度に引き続き、卒業後4年以内の卒業生を対象とした就職先の定着状況や離職状況について、事業所や卒業生に対し、対面及び電話による聞き取り調査を実施し実態の把握に努め、課題解決のための一助とする。
- ・全学年実施の「総合的な学習の時間」や商業科3学年選択科目「経済活動と法」など、労働問題に関する教育を一層充実させる。

⑥ 進学した卒業生への追跡調査等を行い、専門学校等の進学先の実態を把握し、データ等の情報収集も一層促進していきながら、今後のキャリア教育・進路指導に生かしていくための一助とする。

⑦ 今年度初めて進路指導部主幹で行った「就業体験（インターンシップ）」の指導の在り方について、キャリア教育の面から指導体制等について一層の強化を行う。

⑧ 3年連続で実施予定の全学年によるキャリアセミナー（特定非営利活動法人ハーベスト様）

⑨ ビジネスマナー教育についての強化・改善に努める。特に、秘書サービス接遇関係の指導方法についてより積極的に取り入れていく。

⑩ 本校のキャリア教育実践の原点である起業家教育についての一層の充実に努める。

- ・オリジナル教材の活用「起業家教育 課題解決プログラム（KEP 鹿島台商業高校アントレプレナーシップ プログラム）」（自作教材，株式会社デュナミスの御指導・御助言がベースとなる。）
- ・来年度より学校設定科目「地域ビジネスプランニング」2単位実施にともない教育内容を一層充実させ，身につけさせたい社会人基礎力養成の一助とする。
- ・宮城大学との連携 「課題解決型学習における学生チューターの学習支援」も引き続き行う。
- ・商業科を中心とした「商品開発」の教育実践内容を充実させる。

⑪ 学習成果発表会の実施

⑫ ホームページやマスコミ・雑誌等に本校のキャリア教育の取り組みを積極的に発信させていく。

⑬ キャリア教育推進協議会の運営についての研究

特に、学校経営や学校マネジメントも視野に入れた協議会のよりよい運営について研究を行う。

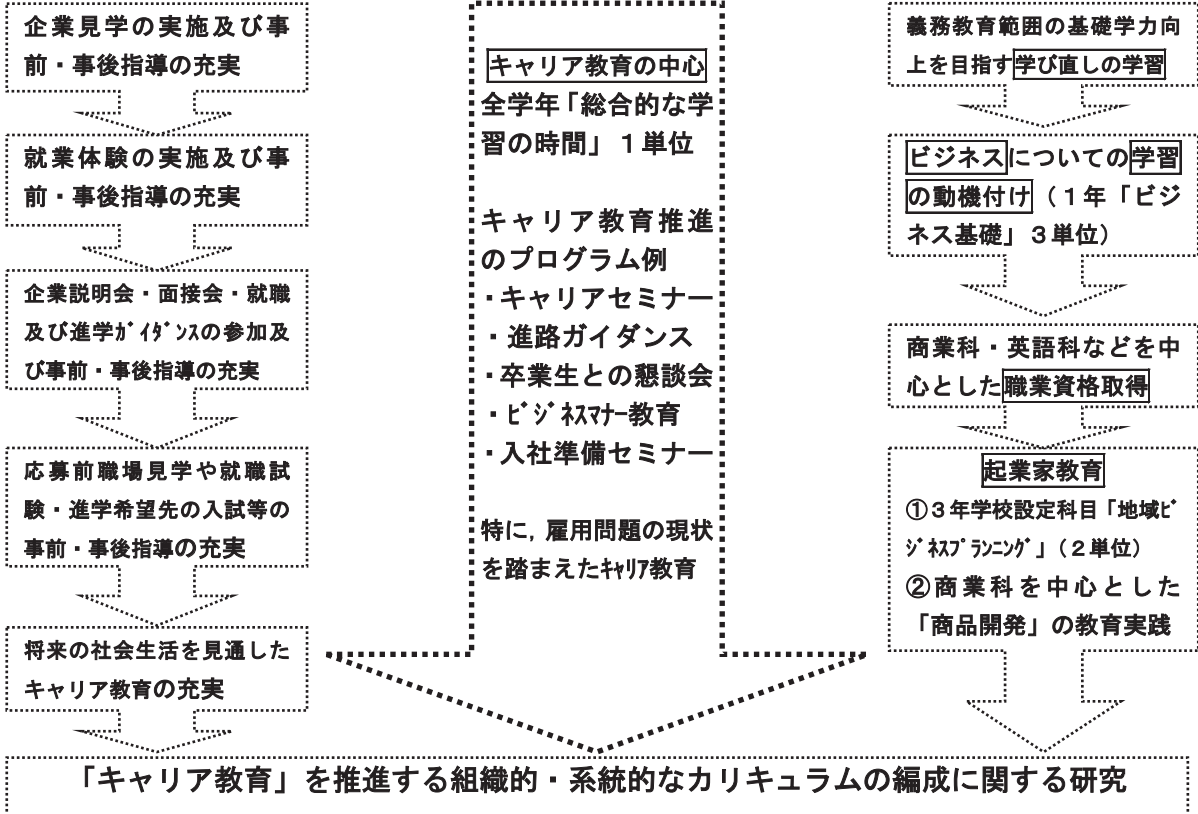
研究のねらい

- 1 「キャリア教育」を推進する組織的・系統的なカリキュラムの編成
- 2 「進路指導」を中心に「起業家教育（アントレプレナーシップ・商品開発）」等も系統化された学習体制の確立

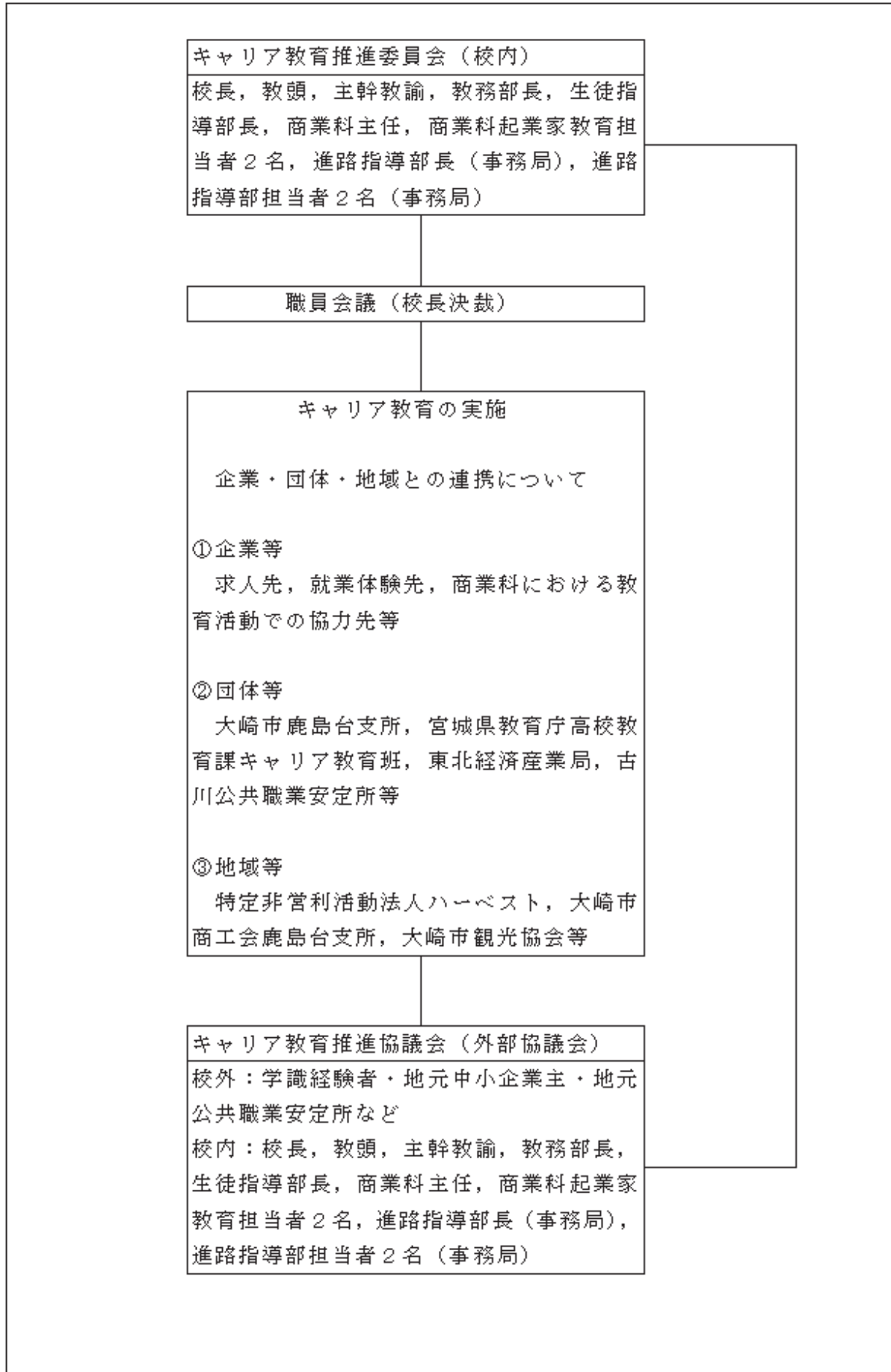


生徒の望ましい勤労観・職業観を育む「キャリア教育」の推進

イ 「キャリア教育」を実践する主な内容及び科目等について



(3) 事業展開の予定（企業・団体・地域との関係，図示）



(4) 企業・団体・地域との関係について（平成27年度 事業計画予定）

組織名	代表名	役割等	都道府県
宮城大学	理事長 西垣 克	キャリア教育推進協議会 座長，学生チューター， 学習成果発表会の助言， キャリア教育（進路指導 ・起業家教育等）の連携	宮城県
特定非営利活動法人ハ ーベスト	代表理事 山崎 賢治	キャリア教育推進協議会 委員，キャリア教育・進 路指導の連携，キャリア セミナーの実施	宮城県
大崎商工会		キャリア教育推進協議会 委員，地域行事の連携， キャリア教育（進路指導 ・起業家教育等）の連携	宮城県
大崎市鹿島台総合支所	市長 伊藤 康志	キャリア教育推進協議会 委員，地域行事の連携	宮城県
東北経済産業局		キャリア教育推進協議会 委員，キャリア教育（進 路指導・起業家教育等） の連携	宮城県
古川公共職業安定所		キャリア教育推進協議会 委員，キャリア教育・進 路指導の連携	宮城県
一般社団法人みやぎ大 崎観光公社	代表 菊地 武信	キャリア教育推進協議会 委員，起業家教育・地域 行事の連携	宮城県
株式会社 デュナミス	代表取締役 鈴木 圭介	キャリア教育推進協議会 委員，起業家教育・地域 行事の連携	宮城県
宮城県教育庁高校教育 課キャリア教育班	高校教育課長	キャリア教育推進協議会 委員，キャリア教育・進 路指導の連携・指導助言	宮城県
株式会社 一ノ蔵	代表取締役社長 鈴木 整	キャリア教育推進協議会 委員，起業家教育の連携	宮城県
株式会社 デリシャスファーム	代表取締役社長 今野 文隆	キャリア教育推進協議会 委員，起業家教育の連携	宮城県
キャリアプランニング 株式会社	代表取締役社長 桑名 暢	キャリア教育推進協議会 委員，キャリア教育・進	宮城県

		路指導の連携・指導助言	
株式会社 HEXA		進路ガイダンス, キャリア教育・進路指導の連携	宮城県
宮城県北部地方振興事務所		1学年企業見学, キャリア教育・進路指導の連携	宮城県

ウ 本校のめざす「キャリア教育」の全体像（本校の「平成26年度 志教育全体計画」に基づき作成）

学校教育目標

人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民を育成する。

1. 幅広い知識と教養を身に付け、豊かな情操と道徳心を培い、健やかな身体を養う。
2. 個人の価値を尊重し、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主自律の精神と勤労を重んずる態度を養う。
3. 商業に関する基礎的、専門的な知識と技能を身に付け、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う。

校訓 努力以って道を拓き 誠実以って衆に奉ず

育てたい生徒像

- ・基本的な生活習慣が身についている生徒
- ・家庭学習習慣を身につけ、努力ができる生徒
- ・授業に意欲的・積極的に取り組む生徒
- ・のぞましい勤労観と職業観を持った生徒
- ・検定取得に努力し、3級に合格できる生徒

キャリア教育指導目標

自信と誇りを持たせ、目標に向かって充実した学校生活を送らせる
自己理解を深めさせ、現実感のある進路選択の知識と能力を育成する

今年度の重点指導目標

- 【人と「かかわる」】
- ・ホームルーム活動を通じて、よりよい人間関係を築く力や社会性を養う。
 - ・起業家教育を推進し、地域の人との交流を通じて、自己理解や他者理解を深化させる。
- 【よりよい生き方を「もとめる」】
- ・系統的なキャリア教育に取り組み、社会に役立つ人間としての在り方を追求させる。
 - ・基礎学力の定着をはかり、学校で学ぶ知識と社会と職業との関連を実感させる。
- 【社会での役割を「はたす」】
- ・学校行事に積極的にかかわり、組織の中での自分の果たすべき役割を認識させる。
 - ・部活動に活発に取り組む、集団の中で自分の役割を果たすことで自己有用感を高める。

各学年の指導目標（主な活動、指導内容）

1学年	2学年	3学年	
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を身につけさせる。 ・早期に高校生活に順応させる。 ・自己分析を土台にして将来を考えさせ、調べ方を学ばせる。 ・キャリア教育オリエンテーション ・基礎力診断テスト ・進路ガイダンス ・職業探索学習 ・キャリアセミナー ・企業見学 ・卒業生との懇談会 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の自分を考えさせ、具体的な行動に移らせる。 ・勤労観、職業観を深めさせ、就業体験を通して理解させる。 ・進路実現の準備を開始させる。 ・基礎力診断テスト ・進路ガイダンス ・就業体験 ・就職ガイダンス ・キャリアセミナー ・ビジネスマナー講習会 ・卒業生との懇談会 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路目標を具体的に進め、実現に向けて行動させる。 ・将来の人生を踏まえ、高校生活ですべき事柄を理解させる。 ・適正な職業選択を図る。 ・基礎力診断テスト ・進路ガイダンス ・職場見学、オープンキャンパス ・模擬面接指導・合格体験記作成 ・キャリアセミナー ・キャリア講話（労働法等） 	
<p>各教科や資格取得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての教科で興味、関心をさらに高め、学習意欲の向上をはかる。 ・商業科目での資格取得を重視した指導の実施 ・習熟度別、ITの実施で基礎学力の定着をはかる。 	<p>特別活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームルーム活動を計画的に実施し、クラス内での人間関係形成をはかる。 ・生徒会活動を活性化させ、自主的行動による行事を充実させる。 	<p>「総合的な学習の時間」・校外学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な学習の時間」を計画的に実施し、ワークシートや各種資料を有効に活用する。 ・就業体験を重視し、事前、事後指導を重点化する。 	<p>その他の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「キャリア教育推進協議会」の運営 ・中学生1日体験入学時の生徒による学校紹介と案内

指導上の留意事項

生徒のコミュニケーション能力の育成がキャリア形成に有効であるため、すべての指導で重要視する。

6 事業スケジュール

様式2

7 経費内訳書

様式3

8 事業実施体制

(1) 推進協議会の構成

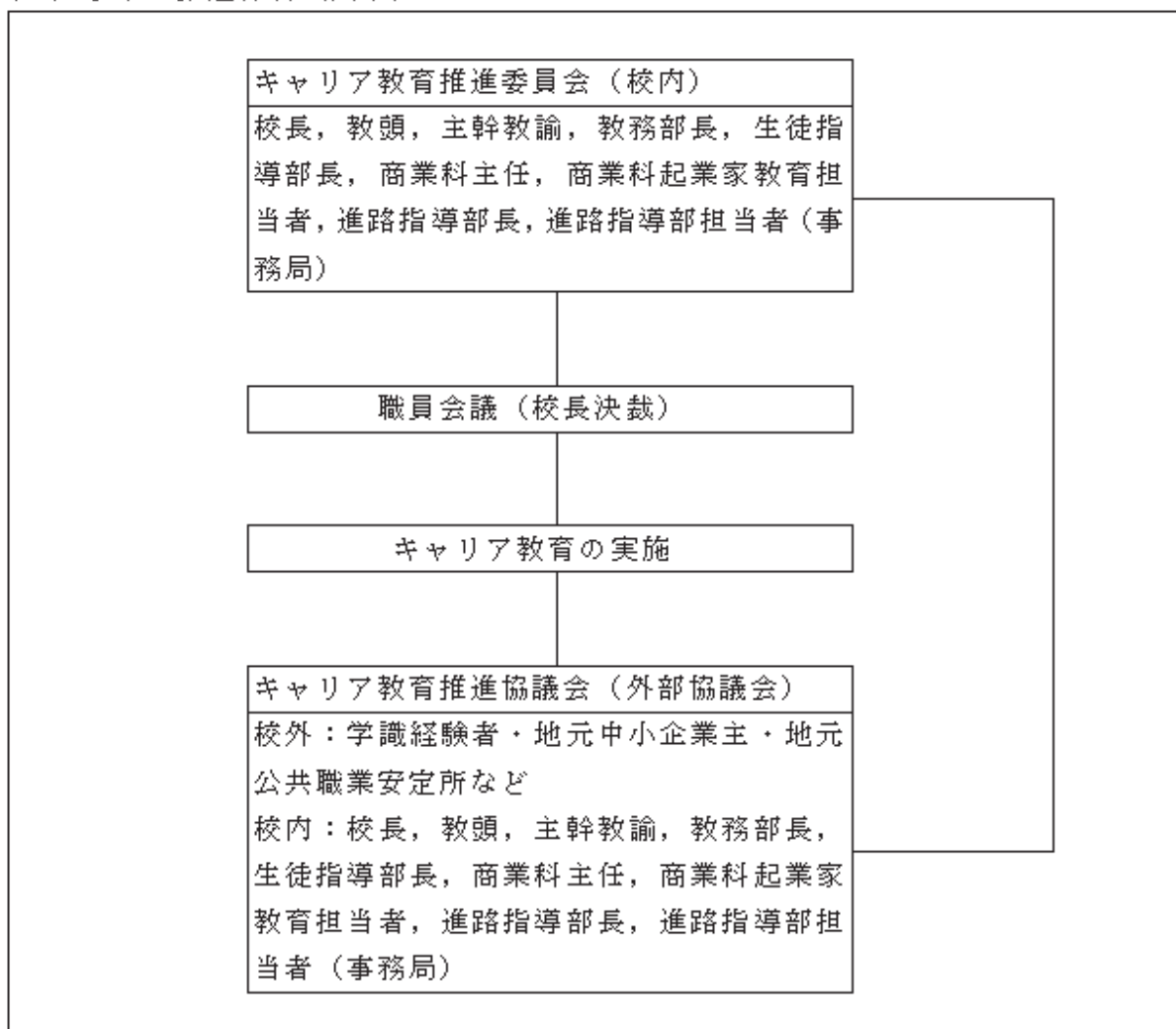
組織名	代表名	役割等	都道府県
キャリア教育推進協議会	校長 佐藤洋一	キャリア教育についての指導・助言を頂く	宮城県
キャリア教育推進委員会	校長 佐藤洋一	校内のキャリア教育の推進	宮城県

(2) 人材育成プログラム開発協力大学・企業・団体等

組織名	代表名	役割等	都道府県
宮城大学	理事長 西垣 克	キャリア教育推進協議会 座長，学生チューター	宮城県
特定非営利活動法人ハーベスト	代表理事 山崎 賢治	キャリア教育推進協議会 委員 キャリア教育・進路指導 キャリアセミナーの実施	宮城県
大崎市鹿島台総合支所	市長 伊藤 康志	キャリア教育推進協議会 委員，地域行事の連携	宮城県
東北経済産業局		キャリア教育推進協議会 委員，進路指導・起業家 教育の連携	宮城県
古川公共職業安定所		キャリア教育推進協議会 委員，キャリア教育・進 路指導の連携	宮城県
一般社団法人みやぎ大崎 観光公社	代表 菊地 武信	キャリア教育推進協議会 委員 起業家教育・地域行事の 連携	宮城県
株式会社 デュナミス	代表取締役 鈴木 圭介	キャリア教育推進協議会 委員，起業家教育・地域 行事の連携	宮城県
宮城県教育庁高校教育課 キャリア教育班	高校教育課長	キャリア教育推進協議会 委員・キャリア教育・進	宮城県

		路指導の連携	
株式会社 一ノ蔵	代表取締役社長 松本 善文	キャリア教育推進協議会 委員，起業家教育の連携	宮城県
株式会社 デリシャスファーム	代表取締役社長 今野 文隆	キャリア教育推進協議会 委員，起業家教育の連携	宮城県
キャリアプランニング 株式会社	代表取締役社長 桑名 暢	キャリア教育推進協議会 委員，キャリア教育・進 路指導の連携・指導助言	宮城県
株式会社 HEXA		進路ガイダンス	宮城県
宮城県北部地方振興事務 所		1 学年企業見学 進路指導の連携	宮城県

(3) 事業の推進体制 (図示)



※行が不足する場合には，適宜追加してください。

※文書全体を囲むような罫線は使用しないでください。

添 付 資 料

平成26年度 第1回キャリア教育推進協議会 資料

平成26年度 第2回キャリア教育推進協議会 資料

別冊資料 教員研修報告

- ① 日本キャリアデザイン学会視察研修
- ② 県外先進校視察研修（愛媛・岐阜・静岡）
- ③ 県外先進校視察研修（青森・秋田）
- ④ 福島学院大学視察研修
- ⑤ 東北六県商業教育研究発表大会視察研修
- ⑥ ビジネスアイデア甲子園・アンテナショップ「Jengo」インスタントラーメン発明記念館視察研修

(様式2)

東日本大震災からの復興を担う専門人材育成支援事業 事業実施スケジュール

学校名		宮城県鹿島台商業高等学校											
No	事業項目	事業期間(～平成26年2月)											備考 ※当初計画したものでなかった事業の理由を記入願います。
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
1	「キャリアの時間」プログラム(全学年・週1時間)			総合的な学習の時間(全学年・1単位)	総合的な学習の時間(全学年・1単位)	総合的な学習の時間(全学年・1単位)	総合的な学習の時間(全学年・1単位)	総合的な学習の時間(全学年・1単位)	総合的な学習の時間(全学年・1単位)	総合的な学習の時間(全学年・1単位)	総合的な学習の時間(全学年・1単位)	総合的な学習の時間(全学年・1単位)	
2	就業体験(インターシップ)プログラム			事前指導(2学年・1単位)	事前指導(2学年・1単位)	事前指導(2学年・1単位)	事前指導(2学年・1単位)	事前・事後指導(2学年・1単位)及び実施	事後指導(2学年・1単位)	事後指導(2学年・1単位)	事後指導(2学年・1単位)		
3	キャリアカウンセリングプログラム(全学年)			二者・三者面談、キャリアカウンセリング	二者・三者面談、キャリアカウンセリング	キャリアカウンセリング	キャリアカウンセリング	キャリアカウンセリング	二者・三者面談、ハローワーク面談、キャリアカウンセリング	ハローワーク面談、キャリアカウンセリング	ハローワーク面談、キャリアカウンセリング	ハローワーク面談、生徒指導サポーター・キャリアアドバイザー面談、キャリアカウンセリング	
4	専門教育プログラム			商業科授業、商品開発関係、部活動などでの指導	商業科授業、商品開発関係、部活動などでの指導	商業科授業、商品開発関係、ビジネスマナー特別指導、部活動などでの指導	商業科授業、商品開発関係、部活動などでの指導	商業科授業、商品開発関係、部活動などでの指導	商業科授業、商品開発関係、部活動などでの指導	商業科授業、商品開発関係、部活動などでの指導	商業科授業、商品開発関係、部活動などでの指導	商業科授業、商品開発関係、部活動などでの指導	
5	起業家教育プログラム						商業科目「総合実践」での指導	商業科目「総合実践」での指導	商業科目「総合実践」での指導、宮城大学学生指導	商業科目「総合実践」での指導、学習成果発表会	商業科目「総合実践」での指導		
6	キャリア教育推進協議会プログラム			第1回							第2回		7月の第1回キャリア教育推進協議会は予算令達期間に合わずです。
7	キャリア教育に関する外部研修プログラム						日本キャリアデザイン学会、東北六県商業教育研究大会	県外学校視察(香森・秋田)、県外学校視察(愛媛・岐阜・静岡)	全国高等学校ビジネスアイデア甲子園最終審査・表彰式視察、全国高等学校生徒商業研究発表大会視察、福島学院短期大学視察	地域とともにある学校づくり推進フォーラム	キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰式、キャリア教育推進連携シンポジウム、	国立教育政策研究所教育課程研究センター関係指定事業研究協議会	7月の全国高校簿記コンクール視察、8月の大阪商業大学「起業教育研究会」は予算令達期間に合わずです。 ※起業教育研究会は予算令達関係以外にも、現地に大型台風の影響のため急遽開催中止となり、全国高等学校ビジネスアイデア甲子園最終審査・表彰式の視察等に切り替えた。 8月の日本商業教育学会、11月の日本キャリア教育学会、12月のビジネスプランコンテスト、1月の高校生ビジネスプラングランプリは、本校の急務となっている課題である豊かな教養を少しでも身につけさせるためのビジョンを形成するための各種視察等に切り替えた(また、上記の学会等には本校の教員(進路指導主事)が過去に何度も参加経験があることも考慮した)。さらに、校内のキャリア教育推進のためには、授業を中心とした指導力向上や地域連携による学校づくりの必要性が急務となり、商業科関係の研究大会及び教育課程研究センター関係指定事業研究協議会、地域とともにある学校づくり推進フォーラムに出席するよう切り替えた。 キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰式については、本校が表彰を受けた関係により、当初予定していたシンポジウムと一緒に出席することとなった。
8													
9													
10													